（別紙３）

公表　放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	LEGON Kids天満月組			
○保護者評価実施期間	2024年　4月　1日		～	2025年　3月　31日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	48	（回答者数）	28
○従業者評価実施期間	2024年　4月　1日		～	2025年　3月　31日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月　31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・普段から、SSTを意識した活動をしている。 ・LINEを使って職員や保護者様と身近に連絡を取ることができ、児童の情報をすぐに確認することができる。 ・専門性の高い職員が充実している。 ・PT、STがいること。 ・幅広い年代の児童がいること。 ・キッズジムや公園など運動するのに適した環境が多く、子どもに合わせた運動遊びを提供することができる。	・集団内で過度に職員が介入せず、活動できるよう対応している。毎日のおやつ時の金銭管理、順番待ち、計算など。 ・その日に来る児童の課題を確認して、支援を行うようにしている。また、送迎ボードを事前に確認し、送迎者と連携が取れるよう送迎時間を把握するようにしている ・保護者のニーズを取り入れられるように、その日来る児童の情報を確認する。 ・専門職による他事業所との会議や研修が定期的に行われている。 ・日々、公園遊びなどで運動ができるようにし、いろんな年代の児童と関りが持てるようにしている。 ・積極的にキッズジムや公園での運動遊びを提案し、鬼ごっこやドッジボールなど遊びを通して子どもたち同士でのコミュニケーションを促す。室内でも、折り紙や塗り絵などで指先の運動になるような活動を提供している。	・役割の多様化でやりとりの幅を広げる。 ・児童に提供する遊びをのばしたい能力や実態から考えられるよう研修や勉強をし、保護者にフィードバックが送れるようLINEを活用していきたい。 ・児童指導員も自己研鑽（研修参加）によって支援力を高める。 ・心理士、OTが必要と考える。 ・迷路やシール貼り、おもちゃなど指先を使う遊びのバリエーションを増やしていく。
2	・運動療育を主としている事業所に理学療法士がいる。 ・小学生から高校生まで幅広い年齢層の児童が利用している。（中高生が在籍していることを知って契約を結びたいという家庭があった。） ・専門職が随時配属されており、児童の特性や支援ニーズに応じた専門的な対応ができる体制を整えている。 ・支援計画に基づき、子ども一人ひとりの特性やニーズに合わせた支援を遊びや運動を通して行っている。	・運動活動に理学療法士が対応することで、エビデンスに基づいた身体機能の向上を図ることができる。 ・年齢層を超えて楽しめる遊びや支援を提供している。 ・専門職員によるグループ活動や、個別での関わりを意識的に行っている点。 ・児童一人一人の特性や支援ニーズに応じた適切な支援を提供できるように職員間で情報共有を行っている。 ・レクの狙いを決めて職員に共有し、来所する児童のニーズに合わせてグループや役割を配置したり、個別対応を行うなど柔軟に対応している。 季節ごとの行事や文化に興味が持てるよう、毎月季節に合わせた活動を行っている。	・理学療法士と児童の活動時間の確保。 ・異年齢交流が充実する内容の支援案を考えていく。 ・専門職員とそれ以外の職員がより細かく意見交換を行い、専門職員主導のもと各職員から支援を行うことで、より細かな支援を提供できると考えられる。 ・レクリエーションがパターン化されないよう、よりバリエーションに富んだレクを考案し、子どもたちの成功体験を積んでいく。
3	・個別フィードバックをしている。 ・保育所等訪問支援事業も行っているため、学校園との連携が取れている。 ・PT、STや各職員の前職等を活かして、多様な活動プログラムや関わりを提供できている点。 ・レクリエーション活動で児童同士が積極的にコミュニケーションを取り、協力しながら楽しむことができる活動を取り入れている。 ・外出や制作、調理などの運動面や社会性の向上をねらいにしたレクや、買い物や家事体験、SSTなどコミュニケーションや金銭管理など日常生活に必要な能力の向上にアプローチできるよう狙いを定めたレクリエーションを毎週行っている。	・日々の活動の中で気づいたことや支援したことなどを早期にフィードバックすることで、児童の学校での困りごとなどの情報共有がしやすい。 ・学校園の様子等を知ることによって、家庭・学校園・事業所で支援内容を共有している。 ・児童一人一人の特性に合わせてレクリエーションの活動の内容を工夫している。個別のペースや興味に合わせた支援を行っている。 ・子どもの特性やニーズ、興味に合わせて活動内容や遊びを提供しており、苦手な活動に参加できるようになったり、コミュニケーションや身辺自立を促すための工夫を行っている。	・個別フィードバックの作成時間の確保。 ・他事業所との連携をとり、支援内容を共有していく。 ・保護者とも連携を深め、専門的な視点からアドバイスを提供することで、家庭と連携した支援を目指す。 ・児童一人一人に対する支援をより効果的にするため、職員間で児童の特性やその日の状態を共有している。 ・継続して子どもの特性やニーズを意識したうえで活動を提供していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・室内の環境面。 ・職員間での正確な情報共有が課題と思われる。 ・ビルの４階にあるところ（ビル内に事業所が多数ある）。 ・レクの際に子どもたちの特性や興味によって参加できる子どもとできない子どもに差があるように感じる。	・児童がいる時間に換気がしづらい。壁に穴が空いている。カーペットの張り替えをしていない。 ・本人の意識の問題や職員間の希薄な関係性が関係している。 ・同じビル内に４つの事業所がある上に、エレベーターが１台しかないため、ピーク時に移動が困難な児童が移動できないことがある。また、災害時に避難する際に階段が混雑して危険であることが予測できる。 ・レクはある程度自立している子どもに合わせたものが多いため、難易度がすべての子どもに合っているとは言えず、参加できない子どもへのフォローが薄くなってしまい、支援の質に差が生じてしまう場合がある。	・児童の活動に影響しないタイミングでの換気時間の確保 部分的な補修ができないか検討。 ・自分が関わった児童や事象はLINEに挙げるようにしていき、周りを意識して働くことを心掛ける ・避難訓練を４つの事業所で行い、非常時の避難がスムーズにできるようにしておく。 ・自立が難しい子どもに対しては無理に同じことをさせようとはせず、職員を配置して一緒にできることをやる、作業内容をシンプルにするなどの工夫をする。
2	・他職種間での連携が不足している。 ・間取り。 ・日々の送迎時間等の調整により、活動に対して十分に職員が配置できていないことがある。 ・レク中など、職員間での指示や情報共有が不十分な部分があった。	・朝礼などで、個々に支援内容を考えるよう言われるが、ひとりの児童に対して職員みんなで同じ支援をする必要があるのではと感じる。 ・エレベーターと室内が直結であるために、児童が一人でエレベーターに乗って抜け出してしまう可能性がある。 ・保護者ニーズ等により、現状以上の送迎時間の調整は難しい。児童の体力等に合わせて、保護者様への打診は行っている。 ・活動内容や子どもたちの動き、職員の動きは日案として共有しているが、当日の急な予定変更や子どもたちの調子に合わせて臨機応変に対応しなければならない場面もあり、職員間での連携が取れなくなってしまう。	・職員間での意見交換 ・逃走癖のある児童への合理的配慮として、室内とエレベーターの間に扉を設置する。 ・コアタイムに職員を確保できる人員配置の工夫。 ・日案はよく確認し、不明点や疑問点は確認して潰していく。職員同士で積極的に連絡を取り合い、代替案があれば提示していく。
3	・職員の経験不足、支援法のマニュアルがない。 ・学習支援に対する、個別対応。 ・子どもたちの活動場所の環境整備が不十分な部分があった。	・このような特性のある児童には、このような支援法は有効だったという過去の経験が不足しているように感じる。 ・遅い時間の来所児童の課題等に対して、十分に個別での対応が行えていない。 ・活動時に使用するおもちゃや道具の整理整頓や子どもが触った場所の消毒などが行き届いていない部分があり、活動時に不便さを感じることがある。	・学習支援自体は主となる取り組みではないため、より学校と連携し、宿題の量や内容に対して各児童の負担にならないように調整していく必要あり。 ・よく使用するものの収納場所は決めておき、毎日活動終了時に同じ場所へ収納できるように努める。 ブロックなどのおもちゃは定期的に消毒し、活動場所の衛生は常に清潔に保つ。